

# 知的障害者授産施設が開設

## 企業的努力で自立支援を



ドイツの建物をイメージした水土舎

## 富岡市後賀に市内初

富岡市後賀に今月、市長(52)がオープンした。内での初の知的障害者授産施設「水土舎(すいどしゃ)」(金谷透施設)が、ハム・ソーセージやジャムの製造、養鶏など、多角的な業務を行っていく

予定で、知的障害者の自立の援助に期待が寄せられている。

金谷施設長は「これまで新里村で、知的障害者を雇い、生活を共にしながらハム・ソーセージの製造・販売会社「赤城屋」を経営してきた。

本場ドイツの香辛料や製法を取り入れた味が評判され、西武百貨店や銀座ブランドンなど有名デパートを中心に取引しており、全国に出荷している。

その実績から「授産施設が、企業」としてもつと努力すれば、障害者の真の自立を支援できるのでは」と(金谷施設長)との考えのもと、開設に踏み切った。富岡市を選んだのは、県の担当者のアドバイスや、ほかに授産施設がないことから、今後、ドイツからマイスター(名人)を招き、ハム・ソーセージの製造技術の一層の確立を図る一方、これまでの会社を販売部門とし、営業活動

にも力を入れていく。さらに、障害者の個性をうまく引き出せるよう、業務の多様化も考えており、手始めにフランスの有名メーカーと技術提携したジャムの生産も開始する。

建物は木造平屋建て、延べ床面積は五百三十三平方メートル。定員は三十人で、現在(四月六日)通所しているのは二十一人のため、また若干の空きがある。開所時間は午前九時から午後五時まで。日曜も開放していただければ、通所者の家族のことなども考え、いずれは日曜も開放していただければ、商品は五月ごろから施設でも販売する予定」と金谷施設長は話している。問い合わせは社会福祉法人上州水土舎(64・1254)へ。